

# 侵略的外来種に関する国際ウェビナー

「昆明-モンテリオール生物多様性枠組」ターゲット 6 の達成に向けて「IPBES 侵略的外来種評価報告書」を基に行動する

2023 年 10 月 5 日 20:00～23:00 (日本時間: UTC+09:00)

主催者: 環境省

## 要約

### はじめに

侵略的外来種(IAS)は世界の生物多様性損失の主要な要因の1つとされている。生物多様性条約(CBD)締約国は昆明・モンテリオール生物多様性枠組(GBF)<sup>1</sup>においてIASに関する行動目標ターゲット6を策定し、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム(IPBES)においては、「侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価報告書」<sup>2</sup>を作成した。本年4月に日本国・札幌市で開催されたG7気候・エネルギー・環境大臣会合では、国・地域レベルでの情報共有、技術開発、民間参画を含む必要な措置を議論し、一連の推奨事項を策定するため、IASに関するG7ワークショップを開催することとなった。今回のウェビナーは、このワークショップの前哨戦となるものである。ウェビナーには、IPBESIAS評価報告書の共同議長やCBD事務局、国際自然保護連合(IUCN)、自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)、生物多様性アセアンセンター(ACB)、日本の国立環境研究所(NIES)、イタリアの環境保護研究センター(ISPRA)から講演者が登壇した。

### 主要メッセージ

モデレーターの中尾文子氏(環境省)によるワークショップの主要メッセージ:

- **世界的、地域的、二国間協力を推進すること**は、IASの防除と管理に向けた取組を促進するために必要であって、そのためには各国間の情報交換が不可欠であり、ウェビナーのような定期的な会議は効果的である。また、IASに関する関係機関間連絡グループ(Inter-Agency Liaison Group)のような多国間協力体制を支援し、さらに発展させることも有効である。

<sup>1</sup> 昆明-モンテリオール生物多様性グローバル・フレームワーク、<https://www.cbd.int/doc/decisions/cop-15/cop-15-dec-04-en.pdf>

<sup>2</sup> IPBES 外来種とその防除に関するテーマ別評価報告書 <https://www.ipbes.net/ias>

- **普及と主流化には、社会全体へのアプローチが必要である。**IAS は、国や企業の経済的利益と直結しており、標準化されたガイダンスを作成することは有益である。IAS の課題に対処するためには、自然保護だけでなく様々な分野を横断した議論が必要であり、先住民や地域コミュニティ、若者の積極的な参加と貢献を歓迎すべきである。
- **科学研究や、地球規模のデータベース、情報システムの強化が必要である。**データと情報の提供には持続可能な支援が必要である。研究、データベース、情報システムは、先住民の知識も含め、モニタリングや効果的な IAS 対策の開発に不可欠である。

## 関係機関からの講演

### 開会挨拶

ワークショップの冒頭、**環境省自然環境局長の白石隆夫氏**は、講演者への謝辞と、ウェビナーの開催に協力した G7 メンバーへの謝辞を述べた。また、IPBESIAS 評価報告書の政策決定者向け要約が承認されたことの重要性を認識し、生物多様性損失の主な直接要因である IAS の課題に対処するための協力の重要性を強調した。

**CBD 事務局長代理のデビッド・クーパー氏**は、IAS の影響は人と自然に対する脅威であると述べ、IPBES 報告書が GBF のターゲット 6 に向けた取組を支援することに期待を寄せた。また、報告書からいくつかの統計を概観し、IAS は統合的なガバナンス、政策、戦略を通じて管理できると付け加えた。クーパー氏は、日本をはじめとする G7 メンバーの IAS 対策に謝意を表し、すべてのセクターが貢献する必要性を指摘した。

**IPBES 事務局長のアン・ラリゴードリ氏**は、IPBES IA 評価に貢献した人々に対し謝辞を述べた。IAS の管理は達成可能であり、アセスメントでは幅広い管理と対応オプションが提示されていると述べた。また、IAS の管理は GBF や SDGs の他の目標にも貢献すると強調した。また、報告書の発表が地理的、言語的に世界的なメディアで異例の成功を取めたことを強調し、政策、プロセス、行動への重要な影響がすでに追跡され始めていることを強調した。

### IPBES 侵略的外来種評価報告書の主要メッセージ

IAS 評価の共同議長である**ヘレン・ロイ氏**、**アニバル・ポーチャード氏**、**ピーター・ストゥート氏**は、日本の環境省が評価報告書を発表する機会を与えてくれたこと、また地球環境戦略研究機関 (IGES) における技術支援機関の運営の支援に謝辞を述べた。続いて、アセスメントが先住民や地域の知識を含む様々な知識体系を取り入れたものであったことに言及し、専門用語の定義と IAS に関連する統計の概要について説明した。その中で、**37,000 種**の外來種が世界中に定着しており、そのうち**3,500 種**が IAS に分類され、記録されている世界の種の絶滅の**60%**に関与し、毎年**4,000 億ドル**以上のコストがかかっていると推定されること、及び年間約**200 種**のペースで新しい外來種が持ち込まれていることを指摘した。また、IAS に関する国内の政策が不十分であることを指摘したが、その一方で大半の国々の生物多様性国家戦略・行動計画 (NBSAPs) には IAS の目標が盛り込まれていることを認めた。続いて、どこに行動の重点を置くべきか、資金、協力、長期的な取組の重要性について説明し、GBF の多くのターゲットや SDGs

は、部分的に IAS の管理に依存していることを指摘した。共同議長らは、この報告書が政策への情報提供だけでなく、キャパシティ・ビルディングの支援になることに期待を寄せた。

参加者からのなぜ気候変動が IAS のリスクを増大させるのか、という質問に対し、ポーター氏は、外来種が侵入した地域の気候条件が変化や、侵入された生態系内での相互作用やフィードバックが、IAS に利益をもたらす可能性がある」と説明した。

IPBESIAS 報告書の全文が入手できるのはいつになるのかという質問に対し、ロイ氏はウェビナーの後、数週間以内にオンラインで公開されると回答した<sup>3</sup>。

### 生物多様性条約における議論について

**CBD 事務局 侵略的外来種担当官のマリアネラ・アラヤ・ケサーダ**氏は、生物多様性条約 (CBD) の原文だけでなく、多くの出版物でも IAS が取り上げられていることを指摘した。IAS に対する「政府全体」と「社会全体」のアプローチ、先住民や地域の知識を含む科学とイノベーション、そして協力の必要性について述べた。さらに、IAS に関する関係機関連絡グループの機能を概説し、統合的なガバナンス、資金調達、普及活動の重要性を強調した。

優先 IAS (priority IAS) の意味を説明するよう求められたアラヤ氏は、最も脅威的な IAS や最も脆弱な地域に焦点を絞るといったターゲット 6 の文言に言及した。

### IUCN による侵略的外来種に関する取組について

**国際自然保護連合 (IUCN) IAS 担当官のケビン・スミス**氏は、IAS 専門家グループ (ISSG) を含む IUCN の IAS に関する活動について説明した。IUCN が関与してきた関連成果として、IAS とその導入経路の特定、優先順位付け、管理を支援するための関連成果として、導入経路を分類する統一システムである世界移入種データベース (GISD)<sup>4</sup>、導入経路を分類する統一システム、外来種と侵略種の世界登録、外来種の環境影響分類 (EICAT)<sup>5</sup>、IUCN 絶滅危惧種レッドリスト<sup>6</sup>、各種ガイドラインなどを紹介したさらに IPBESIAS 評価にて報告された 3,500 種の IAS の影響を評価する EICAT 評価を実施するなど、ターゲット 6 に向けた進展を支援するためには、これらのデータセットを確実に維持・拡大し、持続可能な資金調達が不可欠であると述べた。

また、新興種や再興種のリストがあるのかという質問に対し、新興種を特定しリストアップする試みがなされていると述べた。

<sup>3</sup> 報告書はウェビナーの後、ウェブ上で公開された。IPBES Thematic Assessment Report on Invasive Alien Species and their Control, <https://doi.org/10.5281/zenodo.7430682>

<sup>4</sup> Global Invasive Species Database, <http://www.iucngisd.org/gisd/>

<sup>5</sup> Environmental Impact Classification for Alien Taxa, <https://www.iucn.org/resources/conservation-tool/environmental-impact-classification-alien-taxa#:~:text=The%20Environmental%20Impact%20Classification%20for,living%20outside%20their%20natural%20range>

<sup>6</sup> IUCN 絶滅危惧種レッドリスト, <https://www.iucnredlist.org>

## TNFD の推奨事項、ガイダンス及びメトリクスについて

自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD) 上席技術主任のローラ・クレイビー氏は、TNFD が最近発表した提言<sup>7</sup>について説明した。彼女は、この勧告で使用されている開示と LEAP(Locate, Evaluate, Assess, Prepare) アプローチについて概説した。また、IAS は依存関係やその影響を通じてビジネスに影響を与えるため、TNFD に適合するものであると説明し、提言で使用されている測定基準について説明した。

## ASEAN の侵略的外来種管理に関する行動計画

ASEAN 生物多様性センター(ACB) 開発と実行プログラム局長のクラリサ・C・アリダ氏は、「ASEAN の侵略的外来種管理に関する行動計画」<sup>8</sup>について発表を行った。この行動計画は、東南アジアにおける IAS による脅威の増大とその影響に対応するために作成された。IAS 管理におけるギャップを強調し、8つの目標（法的枠組みと調整の強化、IAS の影響に関する市民の認識の向上、能力と資源の増強、リスク評価と優先順位付けの改善、嚴重な水際対策の維持、予防とセキュリティ対策の改善、モニタリングと評価・報告の改善、IAS 管理のための資金調達メカニズムの開発）を掲げている。

## 日本の外来種対策の進展について

国立研究開発法人国立環境研究所 生物多様性領域生態リスク評価・対策研究室長の五箇公一氏は、IAS の事例とその管理について紹介した。沖縄のマングースや日本各地のアルゼンチンアリなど、駆除に成功した事例が紹介され、ヒアリに対する現在の取組についても語った。また、偶発的な IAS を国外に出さないよう注意する必要があると指摘した。最後に、GBF と IPBES の報告書を考慮し、環境省の外来種被害防止行動計画を 2024 年までに改訂する予定であることにも言及した。

## 侵略的外来種を効果的に管理するための課題

イタリア環境保護研究所 野生動物事業長のピエロ・ジェノベジ氏は、EU の IAS に対する規制<sup>9</sup>が国内の法律に影響を与え、イタリアでは現在、最も資金を必要としている地域に資金が割り当てられていると述べた。また、リスクの高い IAS については国家管理計画が策定されており、複数の種が持ち込まれるのを防ぐための経路行動計画も検討されていると述べた。また、最近イタリアでもヒアリが検出されたが、報告が遅れたこと、管理能力が不十分だったことから拡散してしまった。ジェノベジ氏は、より積極的なアプローチの必要性を指摘した。

<sup>7</sup>自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) 勧告、<https://tnfd.global/publication/recommendations-of-the-taskforce-on-nature-related-financial-disclosures/>

<sup>8</sup>侵略的外来種 (IAS) 管理のための ASEAN 行動計画、[https://www.aseanbiodiversity.org/wp-content/uploads/2023/09/2023-9-5-Final-ASEAN-Action-Plan-for-IAS-Management\\_clean\\_1.pdf](https://www.aseanbiodiversity.org/wp-content/uploads/2023/09/2023-9-5-Final-ASEAN-Action-Plan-for-IAS-Management_clean_1.pdf)

<sup>9</sup>Invasive Alien Species Regulation (Regulation (EU) 1143/2014), [https://environment.ec.europa.eu/topics/nature-and-biodiversity/invasive-alien-species\\_en#:~:text=The%20Invasive%20Alien%20Species%20Regulation,Union%20concern%20\(Union%20List\)](https://environment.ec.europa.eu/topics/nature-and-biodiversity/invasive-alien-species_en#:~:text=The%20Invasive%20Alien%20Species%20Regulation,Union%20concern%20(Union%20List))

## パネルディスカッション

IAS による悪影響を最小化するための国際・地域協力強化の鍵について質問されたアリダ氏は、国際・地域協調と統合ガバナンスの重要性を指摘し、関連する ASEAN 行動計画について言及した。ジェノベジ氏は、データの交換のしやすさ、IAS に対する認識を高める必要性を指摘した。

ビジネス・セクターとどのように協力できるかという質問に対し、クレイビー氏は、規制、より良い政策、意識の向上だけでなく、オープンな対話の場を設ける必要性を指摘した。五箇氏は、グローバル・サプライ・チェーンに依存している国々は、IAS を輸入または輸出することによる経済的影響を考慮する必要があると述べた。

IAS に対する国際協力の機運を高めるにはどうすればいいかという質問に対し、スミス氏は、IAS は我々の分野以外の指導者たちによっても取り組まれる必要があると述べた。また、データの収集と持続可能な資金調達の重要性を強調した。ストゥート氏は、IPBES 評価報告書の活用とその重要なメッセージの活用を奨励し、能力開発、情報共有、モニタリング、メディア・キャンペーンの重要性を指摘した。アラヤ氏は、GBF が各国の行動の引き金になることを期待すると述べ、IAS の科学と政策の橋渡しをする必要性を強調した。

ロイ氏は、IAS の脅威を伝えるため、様々な聴衆に向けたコミュニケーションの重要性を指摘した。ポシヤール氏は、今回の報告書は全体像を示しており、より国際的な協力の必要性を示していると述べた。最後に、ラリゴードリ氏は、国家レベルや社会においてセクターを超えた協力が必要であると付け加えた。